

## 「学校配置の見直しについて」説明会 質疑応答要旨（生野南小学校）

実施日時：平成 26 年 6 月 14 日（土）13：30～14：45

参加者数：24 人

出席者：（生野区役所）清野区長、竹沢副区長、北邑教育振興担当課長  
（教育委員会事務局）川口学校適正配置担当課長  
（学校）山元生野南小学校長、石川田島中学校長

### 統廃合の必要性やめざす方向性に関する質問・意見

1 この統廃合は既存の小学校を利用した統廃合なのか。

（区長）

既存の学校に統合するという方法もありますし、統合する時に新たな場所に学校を作ることも考えられます。

2 統廃合の時に地域活動の単位も再編成するのか。

（区長）

連合振興町会同士で合意があるのであれば別ですが、小学校の配置の見直しによって地域活動の単位を崩すということは考えていません。

3 具体的にどこの学校をなくすというのは決まっていないということだが、何校まで減らすというのは決めているのか。

（区長）

Bブロックの児童数から計算すると小学校4校で学年平均47人/校、小学校3校で学年平均63人/校となるので、安定的に1学年2学級を維持しようと思えばブロック内で小学校3校ということになりますが、あくまで目安であり、丁寧な意見交換を行い具体的な案をお示ししていきたいと考えています。

4 子どもの教育を考えれば統廃合は早急に進めるべきだと思う。地域とのつながりは大切にしていかなければならないが、6年間クラス替えできない学校がBブロックに3校ある。子ども目線で考えた時に、今子ども同士の仲が良いから6年間1クラスでも構わないという意見を聞くことがあるが、それがずっと続くかという疑問はある。

長い目を見た時に、クラス替えのない小学校6年間、そして中学校も小規模という状況が子どもの将来にとって本当に良いことなのかどうかについては、約30年前に出された学校適正配置審議会の最初の答申からの考え方を尊重するべきだと思う。

また、今回は小学校だけの統廃合の話だが、公共施設全般の統廃合も考えてほしい。

（区長）

学校だけでなく区内の様々な施設について、どういう場合にどういう活用ができるのかというこ

とを住民の皆さんの意見も参考にしながら考えていきたいと思えます。

5 小規模校の施設整備が後回しになるのは行政側の都合で、必要なのであればお金を出すべきである。地域住民にとってはかけがえのない交流の場であるし、子どもを育てていく場でもある。地域の実情に応じた、住民にはこんなメリットがあるという話をしてほしい。

6 ブロック割の時に勝山通と今里筋を中心にしたという話であったが、統廃合の際にもそれが線引きの目安になるのか。

(区長)

校区変更するという考え方もないわけではありませんが、現在校区と連合振興町会の境界がほぼ一致している状況なので、その関連を無視して校区を変更することはできないと考えています。

通学の安全や地域のつながりなどを考慮し概ね勝山通と今里筋で区分けしたものがお示しているブロックですが、御幸森小学校の進学先が大池中学校である等ということもあり、今後の意見交換の内容によっては進学先中学校を考慮して属するブロックを変えるということも可能です。

(副区長)

生野南小学校区は今里筋を挟んで分かれているので、ブロックを分けた方がいいというご意見が多ければ変更は可能です。

#### 統廃合の進め方に関する質問・意見

7 統合の話には驚いている。自分の子どももたくさんの子どもの中で育ててほしいので統廃合には賛成であるが、統廃合によってどこかの学年が最後の年を6年生だけで過ごさなければならないようになるのか等は心配である。

(区長)

区内の小学校はそれぞれ伝統のある学校なので、文化が全く違うというのは理解していますし、統合後の学校に新しい文化が根付くまでに、新しい学校に入学した子どもが卒業する6年間程度を要するというのも理解しています。統合の案は早く決定し、統合に向けて児童や先生が行事等を一緒にやる等お互いの文化に慣れ親しむ時間を取ってから同じ学校にするという風にしなければならぬとも考えています。統廃合の際には子どもの心情への配慮も必要だという意見も聞いています。

#### 統廃合後のあり方に関する質問・意見

8 統廃合で通学距離が長くなるのは心配である。また、市民には統合のメリットがないと感じる。

(区長)

設備等の環境整備の面でも小規模校の優先順位は後回しになっていたりすることもありますし、教育環境における課題解消を行っていくためにも統廃合を視野に検討が必要であると考えています。

その他の質問・意見

- 9 通学距離での指定校変更についてもう一度説明してほしい。

(区長)

全小中学校を訪問しPTAや学校長からご意見をいただいた際に、通学距離が長いというご意見が多く寄せられました。そのため、小学校については自宅玄関から通学区域校の正門まで400m以上あり、自宅からより近い場所に別の小学校がある場合にその学校に通うことができるという制度です。

- 10 学校統廃合の周辺区の現状を教えてください。

(川口課長)

鶴見区以外の23行政区で小規模校があるという状況です。

- 11 特別区になった時にこの計画がどうなるかを教えてください。

(区長)

現在、各行政区でそれぞれ同じように学校配置の見直しを検討していますが、将来的に大阪市がどのような形の自治体になったとしても、その自治体で特段の合意がされない限りは、現在行政区単位で取り組んでいる施策は尊重されるものと考えています。